

歌詞に込めた思い

校長 舘岡 靖哲

枯葉舞い散る季節となりました。11月7日は「立冬」です。今年もあと2か月、改めて時の過ぎ行く早さを実感しています。ところで、10月は、新人体育大会、中間テスト、生徒会役員選挙、市駅伝競走大会、つぼみの日、合唱コンクール等、様々な行事がありました。各行事に対する、地域や保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。新人体育大会では、団体戦で女子バスケットボール部が市内で優勝、陸上部が男女ともに総合2位、体操部や男女バレエ部が市代表として、個人戦でも水泳、陸上、男子ソフトテニス、男子剣道、新体操でそれぞれ県大会出場を果たしました。また、市駅伝競走大会は、男女それぞれ63校が参加する中で本校の選手も力を出し切り、男子45位、女子49位という成績を残しました

ところで、10月25日に実施した合唱コンクールでは、特に最後の学校行事となる3年生の歌声が響き渡り、与野東中学校の素晴らしい伝統を後輩たちに示してくれました。ここで、3年生学年合唱の『群青（ぐんじょう）』の歌詞の一部を紹介します。

あれから二年の日が	僕らの中を過ぎて	三月の風に吹かれ	君を今でも想う
響けこの歌声	響け遠くまでも	あの空の彼方へも	大切な全てに届け
涙のあとにも	見上げた夜空に	希望が光ってるよ	僕らを待つ群青の街で
ああー	きっとまた会おう	あの街で会おう	僕らの約束は
消えはしない	群青の絆		

作詞：福島県南相馬市立小高中学校 平成24年度卒業生

作曲：小田美樹(福島県南相馬市立小高中学校 教諭)

この曲が生まれたのは、福島県南相馬市です。東日本大震災当時106名いた小高（おだか）中1学年の生徒の内2名が津波の犠牲となり、97名が避難で散り散りとなり、残ったのは7名の生徒でした。ある日、小高中を離れた生徒がどこにいるのか、大きな日本地図に生徒の顔写真を貼り付け、中学生たちが「遠いね」「でも、この地図の上の空はつながってるね」など話しながら、詩づくりが始まりました。生徒たちの思いを綴った日記や作文、他愛もないおしゃべりから、音楽科の小田美樹先生が生徒たちの思いを書き留めていき、それをつなぎあわせて、この「群青（ぐんじょう）」ができあがったそうです。

さらに、3年7組が合唱した曲「今（いま）」も、平成12年に神戸市立太山寺中学校第17回生が『歌を歌える学年は素晴らしい』を合言葉に学年全員で歌詞を作り、プロジェクトチームの15名が中心になって、仕上げたそうです。どちらの曲からも中学生のエネルギーを感じると共に、歌詞に込めた思いを想像するだけで、熱いものがこみ上げてくるのは私だけでしょうか。

「今」を生きる僕がいる	分かち合える仲間とともに	確かな答えを探しにいこう
「今」を生きるよろこびを	「未来」へすすむ風として	「今」を歩む確かさを
「未来」を生きる勇気にかえて		

作詞：神戸市立太山寺中学校第17回生 作曲：橋本祥路